

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	四戸 智昭
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

違法薬物、市販薬などの薬物乱用問題や依存（嗜癖）問題、インターネット依存やゲーム依存などの行為依存を主な研究対象にしています。どの依存症でも、陥りやすい人には共通点があります。家庭で両親から怒鳴りつけられていたり、家族や身近な人が依存症で苦しんでいたりと、ACEs（子供時代の逆境的体験）を抱えているケースが多いです。さらに現代社会では、依存から抜け出しにくい環境になっています。家庭環境に問題があるだけでなく、学校や職場での不安やストレスから逃げるためにその環境から飛び出して、同じ背景を抱えた人たちが集まり、新たな関係依存（共依存）が生まれやすいこともあります。依存した結果より、その原因に目を向ける支援が大切です。お気軽にメールでご連絡ください。（E-MAIL：shinohe@fukuoka-pu.ac.jp）

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 四戸智昭著.「第3章資料を探そうー上手に本を探すテクニクー」.『旅する大学生のガイドブックーレポートの書き方 2023 年度版』. 福岡県立大学教養演習テキスト出版会. 2023 年 4 月.
- ・ 四戸智昭.「新型コロナウイルス感染症による孤独と不安」.『岩手の保健』. 226 号. 岩手県国民健康保険団体連合会. 2021 年 3 月.
- ・ 柿原 愛、四戸 智昭.「HSP とアダルト・チルドレンの関連性に関する一考察」.『アクションと家族』.第 37 巻第 2 号.日本嗜癖行動学会.2022 年 7 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 柿原 愛、四戸 智昭.「HSP とアダルト・チルドレンの関連性に関する一考察」.日本嗜癖行動学会第 31 回学術集会.熊本.2021 年 11 月.

③過去の主要業績

- ・ 四戸智昭著. (単著).『浪費を止める小さな習慣』. (2001). 光文社.
- ・ 丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり.”第 14 章家族の孤立という危機ーディスコミュニケーションが生む家族の苦悩ー”.『21 世紀の心の処方学ー医学・看護学・心理学からの提言と実践ー』. (2008). 東京、アートアンドブレイン出版.
- ・ 西日本新聞朝刊連載、家族百景Ⅱ、四戸智昭、「不登校・ひきこもり考ー親子の視点から」
2013 年 8 月 13 日～12 月 24 日（全 19 回）

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本嗜癖行動学会（学会誌編集委員）、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アクション学会、子ども虐待防止学会、日本家族と子どもセラピスト学会

6. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、現代社会と嗜癖・2単位・1年・後期、不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、看護学研究・2単位・3年・後期、家族看護学・1単位・3年・前期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・留学生・前期、日本事情A・留学生・後期、大学院看護学研究法・2単位・1年・前期、大学院嗜癖行動学特論・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会・委員
- ・田川市いじめ問題対策委員会・委員長
- ・北九州市依存症対策連携会議・委員
- ・福岡県薬物再乱用対策推進会議・委員

8. 学外講義・講演

- ・下関南高校、アクション模擬授業、2023年7月
- ・アクションフォーラム2023in田川、講演、2023年10月
- ・熊本市精神保健福祉センター、こころの健康づくり講演会、2023年11月
- ・R5年度ひきこもり市民講演会、講演、2023年12月
- ・学校カウンセリング研究会、講演「昼夜逆転とゲーム依存」、2024年1月
- ・水巻看護助産学校、特別講義、2024年2月

9. 附属研究所の活動等